

第9回 自動車安全技術プロジェクトチーム会議の概要

1 開催日時等

- (1) 日時 平成29年3月21日(火) 午後2時25分～午後4時50分
- (2) 場所 ウィンクあいち 1301会議室
- (3) 出席者

愛知県知事 大村 秀章

【企業】

浅田 浩之 三菱自動車工業(株)車両先行研究部長
石尾 渉 オムロンオートモーティブエレクトロニクス(株) 開発統括室技術開発部長
河野 慎司 アイシン精機(株) 走行安全制御技術部長
菅沼 正行 中部日本自動車学校 常務取締役
樋口 正浩 (株)デンソー ADAS推進部 事業推進室長
松永 栄樹 (株)アドヴィックス 制御第2技術部 技監
山本 信 トヨタ自動車(株) ITS企画部 ITS企画室グループ長

【大学】

小栗 宏次 愛知県立大学 情報科学部 教授
鈴木 達也 名古屋大学 大学院工学研究科機械理工学専攻 教授
武田 一哉 名古屋大学 大学院情報科学研究科メディア科学専攻 教授

【行政】

国土交通省中部運輸局、豊田市都市整備部交通政策課
愛知県産業労働部、振興部、県民生活部、建設部
愛知県警察本部

【講師】

水野 幸治 名古屋大学 大学院工学研究科機械理工学専攻 教授
二宮 芳樹 名古屋大学 未来社会創造機構モビリティ部門 特任教授

2 議事概要

- 知事挨拶の後、事務局及びメンバーから、今年度のプロジェクトチームの取組成果及び関連の取組について報告を行った。
- 成果報告等の後、意見交換を行った。主な発言は以下のとおり。

【主な発言・報告】

- 高齢者の事故対策として、新型車には衝突被害軽減ブレーキなどの安全技術を積極的に標準搭載している。但し、既販車への後付け装置が課題である。
- 愛知県は、自動運転技術や高齢者を守る技術はトップクラス。一方、自動運転技術は欧州、特にドイツにおいて法改正も含めた大きな動きをしており、行政においてもこうした技術について、(国に)働きかけをしてもらいたい。

- 事故分析WGの検討結果をもって、当社の安全技術開発の方向性を確認している。WGの継続実施をお願いしたい。
- 普及啓発活動の一つとして、「やごと感車祭」における体験試乗会で協力させていただいている。また、高齢者講習において自動車安全技術のパンフレット配布を通じて、正しい知識の啓発に努めていきたい。
- 安全製品や技術は充実してきており搭載車両も増えてきている。しかし、その普及がネックである。県としても、引き続き普及啓発活動に力を入れていただきたい。
- 事故分析WGにおいて、ドライブレコーダーの映像分析などの貴重な情報が得られ、日々の開発にフィードバックさせている。自動ブレーキや自動運転装置に先行して装着が進んでいるドライブレコーダー情報の、もっと上手い使い方についても議論していきたい。
- 安全運転支援である ITS Connect は搭載車の普及が進んでいるが、事故削減につながるためにもインフラを含めた更なる普及拡大支援をお願いしたい。
- 名古屋COIでこの地域におけるモビリティに関する教育・研究の拠点づくりに積極的に取り組んでいる。産学行政連携の自動車安全技術プロジェクトチームで、名古屋大学もその一翼を担っていきたい。
- プローブ情報活用WGについて、ABS多発箇所目をつけて、そうしたところに対策を打った場合には顕著な効果が出ているということが分かった。
一方で、昨年は212人の方が亡くなっており、必ずしもプローブ情報やドライブレコーダーの分析からあまり浮かび上がってこないような事故も含まれていると思う。個々の事故の分析もどこかで必要ではないかと感じた。
- 平成28年度から第6期のASV推進計画を進めている。今期からは、自動運転技術の普及にも取り組んでいる。その他、自動運転の実証実験を安全かつ円滑に実施するため、基準緩和告示を2月9日に改正し、安全確保措置を講じること等を前提に、操縦装置やかじ取り装置に係る基準を緩和できることとした。
- 豊田市でも独自にプローブ情報を活用した道路交通対策を実施している。また、トヨタ自動車のITSコネクトに関連して、市内の救急車全車に発信装置を取り付けて、緊急車両の接近を知らせることができるようになった。
- 交通死亡事故全体は半減したが、高齢者が第一原因で死亡事故を起こす件数は、10

年前とそう変わらない。その対策は急務である。特に、安全技術が搭載された車両を高年齢者に利用してもらうことは重要であるとする。警察としても、高齢者講習など運転者管理や安全啓発に引き続き力を入れていく。また、新年度からは戦略室を設け、取組・活動をしていく。

- 高齢者の事故に対する対策の中で、車や道路の高機能化に加えて、高齢ドライバーの正しい運転マナーや意識の向上のための教育や情報発信も必要であるとする。
- ドライブレコーダーの映像を活用した事故分析をさせていただいた。過去の研究では、実際の事故の映像を用いた、少なくとも自転車に関するものはほとんど無かった中、事故はどのように起きているかを認識することができた。ドライブレコーダーを用いることで、今後、こういった対策に役立てていけるのかということも検討できることから、引き続き、来年度も分析をさせていただきたい。
- 名古屋COIで産官のブレイン系で、安全の基本になるデータについて、皆様にどういったデータが必要か、非常に高精度なデータを取るとか、シミュレーターなども自由にしているので、こうした活動の下支えになるところをずっとやっていけたらと思う。